

精神看護学実習  
実習指導要項

## 精神看護学実習

### 1. 実習のねがい

精神看護学は、その障害の特性を踏まえて対象理解を深め、精神障害やそこから引き起こされる健康や生活の様々な問題について学ぶ。精神症状が日常的に及ぼす影響をとらえ、こころの病を抱えて生活する対象に必要な看護を学ぶ。こころを病む人が抱える生きにくさは、疾患からくる他者との関わりづらさに加え、地域社会に受け入れられにくいという問題を抱えている。この現状を理解したうえでこころを病む人の人権を守り、生活者としてその人らしく生きていくための援助方法を学ぶ。

精神看護学では実習に至るまでに、精神看護学概論、こころの健康障害の診断と治療、こころの健康障害を持つ人への看護、こころの健康障害を持つ人の地域生活を支える援助の4単位90時間を学習している。精神看護に携わる認定看護師、作業療法士、医師など多職種から講義を受け、多職種が協働して精神障がい者を支えていることを学んでいる。また学生は「看護とは」を機会あるごとに考え、実習で体験し、心に働きかける看護が治療を受ける患者にとって大切であることを理解している。学生は青年期に入り自己の確立を模索している者がほとんどである。領域別実習の早い時期に行われるのは、こころを病む対象との関わりを振り返ることで看護者としての自分をみつめ、課題を見つけることにある。ナイチンゲールの看護覚え書の補章「看護とは何か」の中で、「自分自身では決して感じたことのない他人の感情のただなかに自己を投入する能力をこれほど必要とする仕事は他に存在しない。」と述べているように看護に関わる全ての人々に対して相手の気持ちを理解することが求められる。そこで、成年期の入り口に立つ学生が、相手の感情に自己を投入させる力を育てていくには、まず自分をよく理解することだと考える。その上で、自己から対象へと思考の中心を移動させ相手の感情を理解することを実践から学んでほしい。

#### <実習目的>

様々な暮らしの中で、こころを病む人とその支援者とのかかわりの中から必要な支援について考え、精神看護を深める

#### <実習目標>

- 1 こころを病む対象との関わりを振り返り、人間関係を築くために必要な知識と技術を学ぶ。
- 2 こころの病をもちながら生きていくその人を理解し、必要な支援について考える。
- 3 こころの健康を維持するために、包括的に支援していくことの重要性に気づく。

#### <評価規準> (めざす姿)

- 1 その人が体験した苦痛や生きにくさを知り、治療、家族、地域を含めて支援の方向性を示している。
- 2 その人の願いや夢の実現のために、多職種と連携しながら社会復帰に向けて強みを活かした具体的な支援を表現している。
- 3 こころを病む人の人権を守る法・制度を知り、それに基づいて多職種がそれぞれの役割を担って連携する支援体制を実習の体験をもとに説明している。
- 4 対象とのかかわりを振り返り、看護者としての自己の傾向や課題を認識し、改善に向けて行動を変容している。
- 5 医療者として常に看護の対象や仲間の尊厳、安全を守る行動が取れている。

静岡県立こころの医療センター見学実習

学習活動	学習内容・学習方法	評価規準	評価資料	指導方法
<p>精神疾患の苦痛や生きにくさを知り、その人を包括的にとらえる。</p>	<p>県内の精神科の医療体制、精神科病院の施設、構造、など精神科医療の特徴を理解することで、精神疾患の苦痛や生きにくさを理解する手がかりとする。</p>	<p>その人が体験した苦痛や生きにくさを知り、治療、家族、地域を含めて支援の方向性を示している。</p>	<p>実習記録 プロセス チャート 面接 カンファ レンス</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習に向けて、静岡県精神医療領域の中核的病院であることを理解し、精神医療の特性や病院の構造の特徴などを理解できるように支援する</li> <li>・こころを病む人の治療施設を見学し、精神医療の役割や機能について理解できるように支援する</li> <li>・実習施設のマナーや規則、制限を守り、患者、職員に迷惑をかけることなく見学できるように、適切な態度をとれるよう指導する</li> </ul>
<p>こころの病を持ちながらもその人らしく生きるための支援の実際を考える</p>	<p>精神科病院の治療体制の説明を受けることで多職種の役割を理解する。</p>	<p>その人の願いや夢の実現のために、多職種と連携しながら社会復帰に向けて強みを活かした具体的な支援を表現している。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習記録は教員および実習指導者が評価する</li> </ul>
<p>こころの病を持ちながら生活する人の安全・安楽を守る法的根拠や支援体制を学ぶ</p>	<p>患者の生活の場を見学し、法・制度をもとに急性期の患者の安全に配慮した環境づくりや人権を守るためにどのような配慮を行っているのか知る。</p>	<p>こころを病む人の人権を守る法・制度を知り、それに基づいて多職種がそれぞれの役割を担って連携する支援体制を実習の体験をもとに説明している。</p>		

病棟実習

学習活動	学習内容・学習方法	評価規準	評価資料	指導方法
<p>精神疾患の苦痛や生きにくさを知り、その人を包括的にとらえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1日目は、施設・病棟・リハビリテーション部門オリエンテーションを受け、患者の入院治療を受ける生活環境を理解する。</li> <li>・ 翌日の実習が効果的となるように計画を調整する</li> <li>・ 1日の実習目標及び実習計画の確認を行う</li> <li>・ 受けもち患者について情報を集める</li> <li>・ 受けもち患者の生活の流れに沿って、観察し、かわりながら、病気によって起こっていること、受けている治療、体の状態などについての情報を集める。</li> <li>・ 得られた情報を通してその人が感じている苦痛や、生きにくさについて知る。</li> <li>・ プライマリーナースまたは、その日の担当看護師などから、看護計画の詳細や、今後の看護の方向性などを聞き、患者像と結び付け、自分なりの印象図を表現する。</li> <li>・ 印象図は新しい情報が得られたら毎日書き足し、看護の方向性を導き出す。</li> </ul>	<p>その人が体験した苦痛や生きにくさを知り、治療、家族、地域を含めて支援の方向性を示している。</p>	<p>実習記録 プロセス チャート 面接 カンファレンス</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受けもち患者の紹介を受ける。関わり方や援助の方法についてよく理解できるように打ち合わせておく。</li> <li>・ 実習・日目の1日の実習目標及び実習計画について目標の立て方や実習計画の調整について、具体的にイメージできるように支援する。</li> <li>・ 対象に起きている現象や行動から、精神症状の影響が考えられるよう発問を行う。</li> <li>・ カルテや医師、プライマリーナースから対象の精神症状、治療方針の情報が取れるよう支援する。</li> <li>・ 対象とのコミュニケーションや観察から生活のアセスメントができるよう助言する。</li> <li>・ 対象と家族の関係や精神症状による生活障害が家族に及ぼす影響について理解できるよう指導する。</li> <li>・ 受けもち患者の発症からの経過が把握できているか確認し、不十分な場合は情報を得る方法について助言する。</li> <li>・ 受けもち患者のリハビリテーションに結び付けて考えられるように支援する。</li> </ul>
<p>こころの病を持ちながらもその人らしく生きるための支援の実際を考える</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1日目は、病棟、他部門のオリエンテーションを受け多職種の役割を理解し、看護との連携体制を知る。</li> <li>・ 患者とかかわり、これまでのできごと、今まで経験してきた今後に役立つ経験、夢の実現につながる現在の強みについて知り、今後の看護の方向性について考え、印象図に表現する。</li> <li>・ 患者の主治医、プライマリーナース、PSW、作業療</li> </ul>	<p>その人の願いや夢の実現のために、多職種と連携しながら社会復帰に向けて強みを活かした具体的な支援を表現している。</p>	<p>実習記録 プロセス チャート 面接 カンファレンス</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ プライマリーナースの考えを語ってもらう機会を作り、対象の生活上の困難や理解と強みの発見につなげ、必要な支援を深められるようにする。</li> <li>・ 対象との距離を置き、その人と他者との関わりを観察することによって人との関わりへの傾向を知り支援につなげる。</li> <li>・ 家族支援の実際に関われない場合はスタッフからの家族支援の実際を語ってもらうことにより理解できるよう調整する。</li> <li>・ 受けもち患者のアセスメントの中で強みを生かした</li> </ul>

<p>こころの病を持ちながら生活する人の安全・安楽を守る法的根拠や支援体制を学ぶ</p> <p>看護師として、対人関係における自己の傾向に気づき、行動変容に向け</p>	<p>法士などかかわる職種のケアの方向性を得よう、担当者と調整を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1日目はオリエンテーションを受け、精神保健福祉法などの法令を遵守した、病棟のルールや決まり事を理解し、患者のプライバシー確保と守秘義務、安全・安楽の理解を深める。</li> <li>・受けもち患者とのかかわりから、オリエンテーションで知りえた安全・安楽への配慮が実際の患者にどのように適応されているか知る。</li> <li>・病棟のルールや、患者の行動制限の実際を知り、実習中の自分がどうすべきか考え行動する。</li> <li>・他の専門職が、患者にどのような専門的視点でかかわっているか理解しそれぞれの役割を知り、表現する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1日の記録などに、かかわりから自分を客観的に見つめ気づいたことを、場面を通して表現する。</li> <li>・病棟実習3日目に、それまでの患者とのかかわりの場面をプロセスレコードに起こし、カンファレンスで場面を振り返る。</li> </ul>	<p>こころを病む人の人権を守る法・制度を知り、それに基づいて多職種がそれぞれの役割を担って連携する支援体制を実習の体験をもとに説明している。</p> <p>対象とのかかわりを振り返り、看護師としての自己の傾向や課題を認識し、改善に向けて行動を変容</p>	<p>実習記録 面接 カンファ レンス</p> <p>プロセス レコード 実習状況 面接 カンファ</p>	<p>社会復帰への支援を想起できるよう助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在行われている治療について、薬理作用だけでなく副作用、内服継続への支援、認知行動療法、精神作業療法、ECT療法など行われている治療について理解し把握できるように助言する。</li> <li>・社会復帰に向けた治療継続への支援とその問題点について精神保健福祉士、作業療法士、臨床心理士など多職種に語ってもらう機会を作り、カンファレンスで意見交換できるよう考えを深める。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神科病院における構造の違いとその理由の理解を確認し、不足する場合は助言する。</li> <li>・病棟で行われている、離院・自傷・他害などを防ぐための機能や看護の理解を確認し、不足する場合は助言に加え、スタッフからの助言が得られるよう調整する。</li> <li>・実習病院内の安全管理のために実習中は病院のルールの意味を十分理解し、責任のある行動を実践できるよう指導する。</li> <li>・隔離拘束の適応やその看護について、スタッフより説明を受ける機会を作る。</li> <li>・保護室の見学をする機会を作り、困難な場合はグループ間で学びを共有できる場を作る。</li> <li>・医療保護入院や措置入院の適応とその診断条件を確認し、理解が不十分な場合は再学習を指示する。</li> <li>・病棟内に掲示している人権擁護委員会等の資料を必ず確認し意味を考える機会をつくる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロセスレコードの書き方・検討の仕方を練習して実習に臨む。</li> <li>・患者とのかかわりの中で客観的に自己を見つめる機会を作れるように、実習場面を用いて振り返りを行う</li> <li>・振り返りの機会は、カンファレンス、プロセスレコ</li> </ul>
--	--	--	---	---

て取り組む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受けもち患者と自己のかかわりの傾向や課題を見つけ、関係づくりの手がかりとする。</li> <li>・看護者として、常に自己の傾向や課題を見つめ、行動を変容している場面を振り返ることが望ましい。</li> </ul>	している。	レンス	<p>ード検討、など学生が常に気がかりと感じた場面を引き出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の中には色々な気持ちがあり、その気持ちを否定せずに自分で受け止めることが自己理解・自己成長に繋がることをオリエンテーションより指導する。</li> <li>・自己を見つめることが苦しい場合は支持的に学生の思いを受け止め行動変容に向けて関わる。</li> <li>・自己の課題の解決に向けて行動変容がみられない場合は行動を密に振り返ることにより学生の課題や苦手となる部分を把握し、実習中の患者との関わりの場面で意識できるよう助言する。</li> </ul>
-------	---	-------	-----	---

暮らしの支援実習

精神疾患の苦痛や生きにくさを知り、その人を包括的にとらえる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーションを受け、各施設のルールに従って行動する。</li> <li>・利用者とともに活動に参加し、活動の合間に利用者とかかわり、生活の様子やその施設を利用する理由や思いを知る。</li> <li>・その施設の置かれている社会背景などから考えたり、支援者から伺ったりして得たことをもとに地域での生活の困難や今後の課題を表現する。</li> </ul>	その人が体験した苦痛や生きにくさを知り、治療、家族、地域を含めて支援の方向性を示している。	実習記録 プロセス チャート 面接 カンファ レンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で生活する人がどのような思いを持ち暮らしているのか知ることができるよう、利用者とかかわりを橋わたしする。積極的にかかわることができない学生には振り返りの場を設け、かかわれない状況について助言する。</li> <li>・地域での生活の困難や今後の課題を表現できるよう、施設の特徴や社会背景などを支援者から伝える。</li> </ul>
こころの病を持ちながらもその人らしく生きるための支援の実際を考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験の中で、社会復帰に向けた支援計画がどのような制度を利用して行われているのか理解する。</li> <li>・利用者や支援者とかかわりからその人らしく生きるための実際のケアを知る。</li> </ul>	その人の願いや夢の実現のために、多職種と連携しながら社会復帰に向けて強みを活かした具体的な支援を表現している。	実習記録 プロセス チャート 面接 カンファ レンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの職種がどんな役割を担って利用者とかかわっているのかオリエンテーションする。</li> <li>・看護職以外の専門的視点について学ぶ機会となるため、支援者の思考をできるだけ言葉で伝えたい。</li> </ul>
こころの病を持	・体験する施設の事業の根拠法・制度がわかるよ	こころを病む人の人	実習記録	・施設の根拠となる法・制度について事前学習をし

<p>ちながら生活する人の安全・安楽を守る法的根拠や支援体制を学ぶ</p>	<p>う、事前学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験した活動内容から、地域で暮らす利用者への支援の実際を知り、その人に必要な支援について考え表現する。</li> </ul>	<p>権を守る法・制度を知り、それに基づいて多職種がそれぞれの役割を担って連携する支援体制を実習の体験をもとに説明している。</p>	<p>面接 カンファレンス</p>	<p>て臨むようオリエンテーションする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の生活を守るために法・制度が実際にどのように利用されているのか、学生が自ら理解できるようにかわる。</li> </ul>
<p>看護者として、対人関係における自己の傾向に気付き、行動変容に向けて取り組む</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日の記録などに、かかわりから自分を客観的に見つめ気づいたことを場面を通して表現する。</li> <li>・受けもち患者と自己のかかわりの傾向や課題を見つけ、関係づくりの手がかりとする。</li> <li>・看護者として、よりよい信頼関係構築のために自己を見つめる機会とする。</li> </ul>	<p>対象とのかかわりを振り返り、看護者としての自己の傾向や課題を認識し、改善に向けて行動を変容している。</p>	<p>プロセス レコード 実習状況 面接 カンファレンス</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の中には色々な気持ちがあり、その気持ちを否定せずに自分で受け止めることが自己理解・自己成長に繋がることをオリエンテーションより指導する。</li> <li>・自己を見つめることが苦しい場合は支持的に学生の思いを受け止め行動変容に向けて関わる。</li> <li>・自己の課題の解決に向けて行動変容がみられない場合は行動を密に振り返ることにより学生の課題や苦手となる部分を把握し、実習中の利用者との関わりの場面で意識できるよう支援する。</li> </ul>

### 学びの統合

<p>精神疾患の苦痛や生きにくさを知り、その人を包括的にとらえる。</p> <p>こころの病を持ちながらもその人らしく生きるための支援の実際を</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日実習中に記入した学びのラベルを活用して実習目標の到達を確認するためにプロセスチャートを作成する。</li> <li>・プロセスチャートは、学びを具現化するものとして活用する</li> <li>・個人個人が作成したプロセスチャートを発表し、意見交換することで、お互いの学びを共有するとともに、学びを深める</li> <li>・こころを病む人との関わりからの学びを、精神看護として視点を広げる</li> <li>・実習を振り返り、精神看護の役割について考える</li> </ul>	<p>その人が体験した苦痛や生きにくさを知り、治療、家族、地域を含めて支援の方向性を示している。</p> <p>その人の願いや夢の実現のために、多職種と連携しながら社会復帰に向けて強み</p>	<p>プロセス チャート 面接 カンファレンス 実習状況 実習記録 発言内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日を振り返り「こころを病む人に必要な支援について思ったこと・考えたこと」をラベルに記入している。ラベルの内容は、他者が読んで場面がイメージできる短文を書くため、言葉を丁寧に意味づけて表現するよう指導する。</li> <li>・思ったこと、考えたことは、必要な支援につながる発見を20～50文字程度の一文で表現できるように指導する。</li> <li>・プロセスチャートは、学びを具現化するものとして活用する</li> <li>・プロセスチャートの発表、意見交換では、お互い</li> </ul>
---	--	--	--	--

<p>考える</p> <p>こころの病を持ちながら生活する人の安全・安楽を守る法的根拠や支援体制を学ぶ</p> <p>看護者として、対人関係における自己の傾向に気付き、行動変容に向けて取り組む</p>		<p>を活かした具体的な支援を表現している。</p> <p>こころを病む人の人権を守る法・制度を知り、それに基づいて多職種がそれぞれの役割を担って連携する支援体制を実習の体験をもとに説明している。</p> <p>対象とのかかわりを振り返り、看護者としての自己の傾向や課題を認識し、改善に向けて行動を変容している。</p>	<p>の学びを共有できるよう、他の実習施設で学んだもの同士が発言できるよう調整する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 実習で体験したことを抽象化するために、精神看護の視点を広げる。その際、授業で学んだ知識を活用して、精神科のみならず、リエゾン精神看護、支援者、看護者のこころについても考えを広げられるとよい。</li> </ul>
--	--	--	--

学習活動	具体的な評価規準	観点	評価資料	評価基準			
				すばらしい	よい	もう少し	今一步努力を要する
精神疾患の苦痛や生きにくさを知り、その人を包括的にとらえる	その人が体験してきた苦痛や生きにくさを知り、治療、家族、地域を含めて必要な支援の方向性を表現している	対象理解	実習記録 プロセスチャート 面接 カンファレンス	その人が体験してきた苦痛や生きにくさを知り、治療、家族、地域を含めて支援の方向性を表現している。 30	その人が体験してきた苦痛や生きにくさを知り、治療、家族、地域を含めたその人の思いについて情報を得ている。 25	その人の体験している苦痛や生きにくさについて本人から情報を得ている。 15	その人の背景や経過について、情報を得ている。 5
こころの病を持ちながらもその人らしく生きるための支援の実際を考える	その人のねがいや夢の実現のために、多職種と連携しながら社会復帰に向けて強みを活かした具体的な支援を表現している	対象理解 実践力 調整力 探求心	実習記録 プロセスチャート 面接 カンファレンス	その人のねがいや夢の実現のために、多職種と連携しながら社会復帰に向けて強みを活かした具体的な支援を表現している。 25	その人のねがいや夢の実現のために、社会復帰に向けて強みを活かした支援を表現している。 20	その人のねがいや夢の実現に役立つ強みを見つけている。 15	その人のねがいや夢について情報を得ている。 5
こころの病を持ちながら生活する人の安全・安楽を守る法的根拠や支援体制を学ぶ	こころを病む人の人権を守る法・制度を知り、それに基づいて多職種がそれぞれの役割を担って連携する体制を説明できる	倫理観 実践力 探求心	実習記録 面接 カンファレンス	こころを病む人の人権を守る法・制度を知り、それに基づいて多職種がそれぞれの役割を担って連携する支援体制を実習の体験をもとに説明している。 20	こころを病む人の人権を守る法・制度を知り、それに基づいて提供されているサービスやそこに携わる職種を実習の体験をもとに述べている。 15	こころを病む人の安全・安楽を守る法的根拠や支援体制について受けもち患者について説明している。 10	こころを病む人の安全・安楽を守る法・制度について調べている。 5
看護者として、対人関係における自己の傾向に気づき、改善に向けて取り組む	対象とのかかわりを振り返り、自己の傾向や課題を認識し、改善に向けて行動変容の取り組みを行っている	探求心 倫理観 探求心	プロセスレコード 実習状況 面接 カンファレンス	対象とのかかわりを振り返り、看護者としての自己の傾向や課題を認識し、改善に向けて行動を変容している。 25	対象とのかかわりを振り返り、自己の傾向や課題を受け入れ行動変容に取り組んでいる。 20	対象とのかかわりを振り返り、自己の傾向や課題に気付いている。 10	対象とのかかわりを振り返り、気になる場面を挙げている。 5
看護の対象や仲間の尊厳、安全を護り、医療者として誠実に行動する。	医療者として常に看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る行動がとれている。	倫理観	日常の行動 実習の様子 課題等提出物 出席状況 面接	医療者として看護の対象や仲間の尊厳、安全を護るために適切な行動をとり、仲間の模範となりチームをけん引している。 15	医療者として看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る行動を心がけている。至らない時は学び、行動を変えている。 10	社会的な規範は守っているが、看護の対象や仲間の尊厳、安全を護る意識が低い。 5	自分の行動が看護の対象や仲間を危険に曝している。 0

実習指導者・教員助言

実習欠課時間数

( ) 時間 / 90 時間

	学生	指導者
中間評価	点	点
総合評価	点	点

指導者サイン

担当教員サイン